川内理香子『Even the pigments in paints were once stones』開催のご案内

展覧会名：川内 理香子『Even the pigments in paints were once stones』
会　　期：2023年11月25日（土）–12月24日（日）
オープニングレセプション：11月25日（土）18:00–20:00 *作家が在廊いたします
開廊時間：12:00-19:00（日曜 –17:00）
定 休 日 ：月・火・祝日
会　　場：WAITINGROOM（〒112-0005　東京都文京区水道2-14-2 長島ビル1F）

WAITINGROOM（東京）では、2023年11月25日（土）から12月24日（日）まで、川内理香子の個展『Even the pigments in paints were once stones』を開催いたします。「身体」という根源的なテーマを軸に、ペインティングやドローイング、針金やネオン管など、多岐にわたる素材を用いて作品を制作している川内理香子。近年は、消化や排泄、料理をテーマとした各地の神話の中に象徴的に登場する、動物や人体の一部などのモチーフを、色彩豊かに描いたペインティング作品でも知られています。
本展で川内は、大理石をはじめとした石を素材にした新シリーズを、新作のペインティング作品と共に発表いたします。川内作品の特徴は、どの表現方法においても、作家自身の身体をもって表現される「線」にあると言えます。油絵の具によるペインティング作品も、輪郭で囲まれた対象の内側を塗り分けるのではなく、何層にも厚塗りした色彩の面を、引っ掻くような素早い筆致で線描するという手法で描かれています。石の彫刻の新シリーズでは、ペインティング作品の手法を引き継ぎ、特徴的な線描によるドローイングを、大理石のもつ天然の色彩や模様の上に彫り込みました。新たな素材と出会った川内理香子の新シリーズにぜひご期待ください。

《A Day in the Life》2023, stone, 450 x 710 x 50 mm

《pretzel》2023, stone, 220 x 220 x 70 mm
photo by Shintaro Yamanaka (Qsyum!)（左右とも）

作家・川内理香子について

1990年東京都生まれ、2017年に多摩美術大学大学院美術研究科　絵画専攻油画研究領域を修了。現在、東京を拠点に活動中。食への関心を起点とし、身体と思考、自己と他者、それらの境界の不明瞭さや、消化や排泄、食べることとそこから作られる身体を世界創造の起点とする神話の世界などをモチーフに作品を制作しています。ドローイングやペインティングをはじめ、針金やゴムチューブ、樹脂やネオン管など、その表現方法は多岐にわたります。多摩美術大学在学中の2014年に参加した公募グループ展『CAF　ART　AWARD 2014』で保坂健二朗賞を受賞後、15年に新進アーティストを対象にした公募プログラム『shiseido art egg』にてshiseido art egg賞（大賞）を受賞。21年『TERRADA ART AWARD 2021』ファイナリスト選出、寺瀬由紀賞受賞。22年『VOCA展2022 現代美術の展望―新しい平面の作家たち―』にて大賞のVOCA賞を受賞。近年の展覧会に、2023年個展『The Voice of Soul』（ERA GALLERY／ミラノ、イタリア）、個展『human closely』（Lurf MUSEUM／東京）、個展『line & colors』（N&A Art SITE／東京）、22年個展『Lines』（VAN DER GRINTEN GALERIE／ケルン、ドイツ）など。主なコレクションに愛知県美術館などが挙げられます。

↓＜次頁＞ 展覧会について（続き）

アーティスト・ステートメント

絵の具は水みたいなものだと思う。
というのも絵の具のタッチの中に水や土を感じることがあるからだ。
滝のような、湖のさざなみのような、海の深さのような、
崖のような、地層のような、化石のような、
空の雲や色が刻一刻と変わるように、描いていると柔らかさの中の絵の具も刻一刻と変化する。
あるところで絵の中の流動は私の中で石のようにかたくななものに感じられ画面が結晶化する。
石の成り立ちはどうなっているのだろう。
長い時間をかけた、一瞬の積み重ねが石の積層となり意図しない美しい調和が生まれている。
絵の具の中や、自分が描いた筆跡、筆致の中に同じような自然があって欲しい。
絵の具の柔らかさの中で私は自然を探り出し、それは絵の具の時間の中で徐々に凝固し、石のようなかたさを手に入れる。
今度は石の硬さの中に柔らかな線を見つけ出してみる。
石に線を描いていると、石は絵の具そのものをキャンバスから取り出してしまったみたいな塊にも思えてくる。
でも、考えてみたら絵の具も石などの自然の中のものを削り取って、それが水や油と組み合わさっているものだった。
絵の具もかつては石だったんだ。
だからだろうか、石の中に柔らかな線を見つける時、石の表面もまた皮膚のような柔らかさを取り戻しているような気がする。

川内理香子

左：《gather at the riverbank》, 2023, oil on canvas, 1167 x 910 mm
右：《FAT RAINBOW》, 2023, oil on canvas, 455 x 380 mm

揺らぎを留める柔らかな「線」

ドローイングだけで構成された展覧会で鮮烈なインパクトを残し、そのキャリアをスタートさせた川内理香子は、「線」とは、それを引いた者の身体性が最も如実に表れるものだといいます。「線には、その瞬間の身体の動きが、ひいては精神性までが表れるものだと思っています。自分の思考や身体は、日々刻々と状況の中で変化する流動的なものですが、私は線を引くことで、その瞬間の身体を作品の上に『凝固』させているという感覚があります」（松崎未来「30 ARTISTS U35　川内理香子　Rikako Kawauchi」、ARTnews JAPAN、2022年2月4日、https://artnewsjapan.com/30artists_u35/article/13）と語っているように、川内はその制作を通し、内部と外部、意識と無意識といった、捉え難い何かの境界や輪郭を探るように「線」を引きながら、それらをキャンバスや画用紙の上に留めようとしています。
本展で発表される新シリーズに用いられている大理石は、熱や大きな圧力が加わりながら、長い時間をかけて石灰岩が再結晶化したものです。その組成物であるサンゴなどの死骸は本来は白く、数万〜数億年かけて石として生成する過程で、化学反応や熱による影響、石に含まれる鉱物や金属イオンなどの違いにより、様々な色や模様の違いが生まれます。大理石の表面に表れた天然の色や模様は、何万年という時間をかけて『凝固』してできたものなのです。
川内のペインティング作品の表面を見ると、厚塗りされた柔らかい油絵の具が乾いて固まる前に、その表面を削るように「線」を引き対象が描写されているということがわかります。川内の言う、流動している不確定なものが『凝固』して作品になるという感覚は、かかる時間の差異はあれど、石の成り立ちと似ていると言えるでしょう。そんな石の上に刻み込まれた川内の「線」は、ごつごつとした岩肌に「線」によって描かれた、芸術の始まりとも形容されるラスコーの洞窟壁画を彷彿とさせるかのようです。それらは共に発表されるペインティング作品と響き合い、「線を引く」という表現のもつ身体性や、プリミティブで本能的な側面を思い出させるでしょう。

↓＜次頁＞ 作家略歴

川内 理香子（かわうち・りかこ）

1990 東京生まれ
2015 多摩美術大学美術学部絵画学科油画専攻 卒業
2017 多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻油画研究領域 修了
現在東京を拠点に活動中

2023年個展『human closely』展覧会風景
（Lurf MUSEUM、東京）

個展

2023
「The Voice of the Soul」ERA GALLERY（ミラノ、イタリア）
「human closely」Lurf MUSEUM（東京）
「line & colors」N&A Art SITE（東京）

2022
「Make yourself at home」日本橋三越本店　三越コンテンポラリーギャラリー（東京）
「Colours in summer」銀座 蔦屋書店 GINZA ATRIUM（東京）
「Lines」VAN DER GRINTEN GALERIE（ケルン、ドイツ）

2023年個展『The Voice of the Soul』展覧会風景
（ERA GALLERY、ミラノ、イタリア）

2021
「Empty Volumes」WAITINGROOM（東京）
「afterimage aftermyth」六本木ヒルズA/Dギャラリー（東京）

2020
「drawings」WAITINGROOM（東京）
「drawings」OIL by美術手帖（東京）
「Myth & Body」日本橋三越・三越コンテンポラリーギャラリー（東京）

2018
「human wears human / bloom wears bloom」鎌倉画廊（神奈川）
「Tiger Tiger, burning bright」WAITINGROOM（東京）

2017
「Something held and brushed」東京妙案GALLERY（東京）
「NEWoMan ART wall Vol.7:Easy Chic Pastels 川内理香子」NEWoMan ART wall（東京）

2016
「Back is confidential space. Behind=Elevator」WAITINGROOM（東京）

2015
「コレクターとアーティスト：川内理香子」T-Art Gallery（東京）
「第9回 shiseido art egg：川内理香子展　Go down the throat」資生堂ギャラリー（東京）

グループ展

2023
「Body, Love, Gender」GANA ART CENTER（ソウル、韓国）
「AWT FOCUS：平衡世界 日本のアート、戦後から今日まで」大倉集古館（東京）
「アーツ前橋開館10周年記念展『New Horizon―歴史から未来へ』」アーツ前橋（群馬）
「TRANSFORMATIONS: MATERIAL AND DISSOLUTION」Van der Grinten Galerie（ケルン、ドイツ）
「Paper Whispers」Schönfeld Gallery、（ブリュッセル、ベルギー）
「Good Morning Japan」Nassima Landau Art Foundation（テルアビブ、イスラエル）
「VOCA30周年記念 1994-2023　VOCA 30 YEARS STORY / KOBE展」兵庫県立美術館王子分館　原田の森ギャラリー（兵庫）
「SPRING SHOW」WAITINGROOM（東京）
「2022年度第3期コレクション展」愛知県美術館（愛知）

↓＜次頁＞ 作家略歴（続き）

2022
「OKETA COLLECTION『YES YOU CAN ーアートからみる生きる力ー』展」WHAT MUSEUM 展示室B（東京）
「OKETA COLLECTION: THE SIRIUS」スパイラルガーデン（東京）
「VOCA 30 Years Story / Tokyo」第一生命ロビー（東京）
「VOCA展2022」上野の森美術館（東京）
「SPRING SHOW」WAITINGROOM（東京）

2021
「TERRADA ART AWARD 2021 ファイナリスト展」寺田倉庫 G3-6F（東京）
「抽象　Abstraction by CADAN」伊勢丹新宿店アートギャラリー（東京）
「ビューイング展」WAITINGROOM（東京）

2020
「-Inside the Collector's Vault, vol.1—解き放たれたコレクション展」WHAT MUSEUM展示室B（東京）
「10TH」WAITINGROOM（東京）
「Input / Output」銀座蔦屋書店・GINZA ATRIUM（東京）
「個性の開花 II ポスト伊作世代〜昭和から平成〜文化学院を巣立った人々」軽井沢ルヴァン美術館（長野）
「Spinner Markt（スピナーマルクト）」スパイラルガーデン（東京）
「ビューイング展」WAITINGROOM（東京）

2019
「写真」3F/3階（東京）
「drawings」ギャラリー小柳（東京）

2018
「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 2020 ミュージアム・オブ・トゥギャザー サーカス」渋谷ヒカリエ 8/COURT（東京）

2017
「spiral take art collection 2017『蒐集衆商』」スパイラルガーデン（東京）
「NEWSPACE」WAITINGROOM（東京）
「ミュージアム・オブ・トゥギャザー展 」スパイラルガーデン（東京）
「平成28年度第40回東京五美大連合卒業・修了作品展」国立新美術館（東京）

2016
「Stereotypical」GALLERY PARC（京都）

2015
「デッドヘンジ/エステティック」HIGURE 17-15 cas（東京）

2014
「第1回CAF賞入賞作品展」TABLOID GALLERY（東京）
「That I shall say goodnight till it be morrow」新宿眼科画廊（東京）

2013
「凸展」TKPシアター柏、アートラインかしわ2013（千葉）
「Home Made Family」CASHI冷蔵庫内（東京）
「Sleep No More」多摩美術大学芸術祭（東京）

2012
「OTHER PAINTING XI」Pepper's Gallery（東京）
「凸展」そごう柏店、アートラインかしわ2012（千葉）
「ドーナツのない穴」多摩美術大学芸術祭（東京）

marking, 2023, stone, 110 x 165 x 20 mm
photo by Shintaro Yamanaka (Qsyum!)

アワード

2022年　VOCA賞
2021年　TERRADA ART AWARD ファイナリスト　寺瀬由紀賞
2015年　第9回 shiseido art egg賞
2014年　第1回CAF賞 保坂健二朗賞
　　マネックス証券主催 ART IN THE OFFICE 2014

↓＜次頁＞ 作家略歴（続き）

出版物

『Rikako Kawauchi』Lurf MUSEUM、2023年3月26日
『Rikako Kawauchi Works: 2014-2022』カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社、2022年7月14日
『Rikako Kawauchi drawings 2012-2020』WAITINGROOM、2020年11月［私家版］

展覧会図録

『VOCA 30 YEARS STORY ３０周年記録 1994―2023』公益財団法人日本美術協会 上野の森美術館、2023年
『Rikako Kawauchi line & colors』、N&A Art SITE、2023年4月
『VOCA展2022 現代美術の展望―新しい平面の作家たち』「VOCA展」実行委員会、上野の森美術館、2022年3月
『日本財団DIVERSITY IN THE ARTS 2020 ミュージアム・オブ・トゥギャザー サーカスドキュメント』一般財団法人 日本財団DIVERSITY IN THE ARTS、2019年2月18日
『日本財団DIVERSITY IN THE ARTS 企画展 ミュージアム・オブ・トゥギャザー ドキュメント』一般財団法人 日本財団DIVERSITY IN THE ARTS、2019年2月1日
『日本財団DIVERSITY IN THE ARTS 企画展 ミュージアム・オブ・トゥギャザー ハンドブック』一般財団法人 日本財団DIVERSITY IN THE ARTS、2017年10月
『ART TAIPEI 2016』、Taiwan Art Gallery Association、AMAZING PAPER INTERNATIONAL LTD.、2016年11月・『STEREOTYPICAL 西山美なコ｜川内理香子』京都精華大学現代アートプロジェクト実行委員会、2016年3月15日
『第9回shiseido art egg展カタログ』株式会社資生堂、2015年5月29日

パブリックコレクション

愛知県美術館
第一生命保険株式会社
高橋龍太郎コレクション
マネックス証券

アーティストウェブサイト
https://rikakokawauchi.com

2023年個展『line&colors』展覧会風景（N&A Art SITE、東京）
photo by Shintaro Yamanaka (Qsyum!)

※本展に関するお問い合わせは、下記連絡先までお願いいたします。

WAITINGROOM（代表：芦川朋子）
住所：〒112-0005 東京都文京区水道2-14-2 長島ビル 1F
営業時間：水木金土 12-19時・日 12-17時
定休日：月火祝
Tel：03-6304-1877　Eメール：info@waitingroom.jp
Web：http://waitingroom.jp